はじめに

2020 年度は、コロナ禍中にあった。4 月の全面休講を経て、5 月からの授業は全面的にオンライン化された。教育方法学研究室のゼミナールについても、やっと対面授業（オンラインによる同時配信を併用したハイブリッド授業）を再開できたのは 10 月末、それも年明けには再度の緊急事態宣言で全面オンラインに戻るという状態であった。

しかしながら、教育方法学研究室における研究は、例年にもまして活発に行われた。それを反映して、本号の内容も充実したものとなっている。まず、研究室の OB・OG や現院生の総力を結集して、クレイグ・クライデル（Craig Kridel）著『カリキュラム研究事典（*Encyclopedia of Curriculum Studies*）』（Sage, 2010 年）の翻訳を進めた（ミネルヴァ書房より近刊）。この事典の巻末には、「付録：カリキュラムに関する基本的な問い」が所収されている。この付録は、全米教育研究協会（The National Society for the Study of Education: NSSE）の年報 26 号に掲載された共同宣言「カリキュラム作成の基本（The Foundations of Curriculum Making）」（1927 年）を現代的に問い直すものである。そこで、共同研究のゼミ「教育方法学研究 B」では、NSSE 年報 26 号掲載の共同宣言の翻訳に取り組んだ。本号の「特集」には、その翻訳を石井英真准教授による解題とともに掲載している。

今年度は、私学研修員として吉永紀子先生（同志社女子大学）も私たちのゼミに参加してくださった。本号は、吉永先生や院生たちの原著論文を 5 本、所収している。また、ブラジルの研究者 Jaciara de Sá Carvalho 教授（Universidade Estácio de Sá: PPGE）による筆者へのインタビュー論文の翻訳も掲載した。さらに、初めての試みとして、「海外文献レビュー」も 2 本、載せている。これは、教育方法学に広く関連する国外の外国語文献（書籍・論文等）を日本語で要約して紹介するとともに、その文献の適切な理解に寄与する解説を加えるものである。

コロナ収束の見通しは未だ立たないが、来年度も粛々と研究を進めていきたい。

2021 年 2 月

教育方法学研究室・教授

西岡 加名恵